

第 13 回平和首長会議理事会への出席等に伴う英国訪問について（帰国報告）

1 概要

平和首長会議の副会長都市である英国・マンチェスター市で開催された第 13 回平和首長会議理事会に副会長として出席し、平和首長会議の P X ビジョン及び行動計画（2021 年－2025 年）に基づくこれまでの取組状況を総括するとともに、次期行動計画や令和 7 年に長崎市で開催予定の第 11 回平和首長会議総会の運営方針等について役員都市と審議した。

また、この機を捉えて、ロンドン市にあるワン・ヤング・ワールド本部並びに、ノーブル・カレドニア社を訪問し、トップセールスを行った。

2 出張者

長崎市長 鈴木 史朗 ほか 3 名

（市長随行（平和推進課長（マンチェスターのみ）、観光交流推進室長（ロンドンのみ））、通訳（平和推進課専門官（通訳））

3 出張期間

令和 6 年 10 月 26 日（土）～10 月 31 日（木） 3 泊 6 日 ※市長随行 2 名は別日程

現地日付	内容	用務地
10/26 （土）	（移動）長崎発	移動
10/27 （日）	マンチェスター着 ピース・トレイル・ツアーへの参加	マンチェスター市
10/28 （月）	アメード在マンチェスター日本名誉領事主催朝食会出席 視察・献花 第 13 回平和首長会議理事会（1 日目） レセプション・夕食会	
10/29 （火）	シンプソン グレーター・マンチェスター合同行政機構 CEO との面会 第 13 回平和首長会議理事会（2 日目） （移動）マンチェスター発 ロンドン着	
10/30 （水）	ワン・ヤング・ワールド本部訪問 ノーブル・カレドニア社訪問 （移動）ロンドン発	ロンドン市
10/31 （木）	長崎着	移動

4 主な用務

（1） 10 月 27 日（日）

ア ピース・トレイル・ツアーへの参加

世界で初めて非核宣言を行ったマンチェスター市における、女性参政権、奴隷廃止、核兵器廃絶運動など、平和と正義に向けた取り組みを紹介するピース・トレイル・ツアーに参加。マンチェスター市担当者の案内のもと、戦没者慰霊碑や、毎年、広島・長崎原爆犠牲者追悼平和祈念式典が開催されているピース・ガーデン等を巡った。



ピース・ガーデン

(2) 10月28日(月)

ア アメード在マンチェスター名誉領事主催朝食レセプションへの出席

理事会出席者やマンチェスター市長とともに、名誉領事主催の朝食レセプションに参加。アメード名誉領事と被爆80周年に向けて、日本とマンチェスター市との更なる交流促進について意見交換を行った。



レセプション後の集合写真

イ Glade of Light 及びマンチェスター大聖堂訪問

2017年にマンチェスター・アリーナで発生した爆破テロ事件の犠牲者22名を追悼する記念碑 Glade of Light での追悼式に参加。マンチェスター市長による「Let there be Peace (平和が訪れますように)」の詩の朗読に続き、マンチェスター大聖堂司祭が犠牲者の氏名を読み上げ、全員で1分間の黙とうを捧げた。



追悼式の様子

追悼式終了後、Glade of Light の隣に位置し、約600年歴史を持つ、マンチェスター大聖堂を視察した。

ウ 第13回平和首長会議理事会(1日目)への出席

10月28日(月)から2日間にわたり、マンチェスター市庁舎で第13回平和首長会議理事会を開催し、9都市・1支部の役員都市の代表者が出席した。



会議の様子

【出席役員都市・支部一覧】

- ・9都市(広島市、長崎市、ハノーバー市(ドイツ)、マラコフ市(フランス)、マンチェスター市(英国)、イーペル市(ベルギー)、グラノーラズ市(スペイン)、ビオグラード・ナ・モル市(クロアチア)、エヴォラ市(ポルトガル))
- ・1支部(フランス支部)

(ア) 会議1 行動計画(2021年-2025年)の取組状況について

現行の行動計画(2021年-2025年)の取組状況について、PXビジョン※に掲げる3つの目標の達成に向けた取組が着実に行われていること、特に「平和文化の振興」について、市民の平和意識を醸成する取組が各都市で活発に行われており、引き続き平和首長会議として注力することを確認した。

また、役員都市を代表して、副会長都市でドイツのリーダー都市を務めているハノーバー市が、加盟拡大や支部会議、加盟都市が一斉に旗を掲げるフラッグデーなど同国内の加盟都市の連帯強化の取組などについて、ポルトガルのリーダー都市を務めているエヴォラ市は、同市が実施する主に青少年を対象とした平和文化の振興に関する取組について、それぞれ発表した。

※「PXビジョン(持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン—都市による軍縮と人類共通の安全保障に向けた平和構築)—」

2021年7月に策定したビジョン。従来の2つの柱(「核兵器のない世界の実現」、「安全で活力のある都市の実現」)に、新たに「平和文化の振興」が目標に加わった。

A 核兵器のない世界の実現

都市とその市民が標的となり、使用の影響が地球規模となる核兵器は、市民の安心・安全な生活を脅かす最大の障壁であるため、国連・各国政府とりわけ核保有国及びその同盟国に核兵器廃絶に向けた行動を要請することにより、為政者の政策転換を促す。

B 安全で活力のある都市の実現

市民の安心・安全な生活をより確かなものとするため、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護といった地域ごとに異なる多様な課題に取り組む。

C 平和文化の振興

核兵器廃絶に向けた為政者の政策転換を促す環境や、人類の共存に向けて連帯する市民社会をつくるため、市民一人一人が日常生活の中で平和について考え行動するという、より根源的に重要な「平和文化」を市民社会に根付かせ、平和意識を醸成する。

(イ) 会議 2 次期行動計画の取組について

事務局が提示した次期行動計画（2025年－2029年）案に基づいて審議を行った。

次期行動計画では、地域ごとにリーダー都市が中心となって、地域内の各都市が主体的な取組を実施できるよう、事務局及びリーダー都市が中心となった体制づくりを目指していくこと。また、PXビジョンで掲げている3つの目標のうち、「平和文化の振興」に係る被爆や戦禍の実相の発信・共有及び次代の平和活動を担う青少年の育成を重点的な取組と位置付けたいとの考えが示された。

これに対し、鈴木市長は、被爆80周年を迎える年に策定する行動計画として、核兵器のリスクが高まっている現状を踏まえた取組も強化することを提案した。

(ウ) 会議 3 被爆80周年の取組について

鈴木市長より、来年8月に長崎市で開催予定の第11回平和首長会議総会について説明を行った。役員都市からは、総会出席時に広島・長崎両市を訪問できる機会の検討や、加盟都市に対する総会の招待方法について提案があった。その他の事項については、事務局から世界各地における平和首長会議原爆ポスター展の開催等について説明がなされ、了承を得た。

(エ) 平和首長会議の運営に係る意見交換

平和首長会議が今後も、継続的かつ安定的に活動を行っていくために、財政基盤に関する事項について意見交換を行った。メンバーシップ納付金や寄付金については役員都市や専門委員から様々な意見があり、引き続き検討を行っていくこととした。

エ 長崎市・広島市・マンチェスター市主催夕食会

マンチェスター大学構内にあるマンチェスター博物館の平和展示では、原爆で溶けたガラス片や鶴の剥製と共に平和の象徴である折鶴が常設で飾られていた。

夕食会には、理事会出席者や在マンチェスター名誉領事など関係者が出席。鈴木市長は挨拶で、日本被団協のノーベル平和賞受賞を機に、平和首長会議における各国・地域での平和をつくるための活動がさらに活性化されることへの期待を述べた。



夕食会で挨拶を行う鈴木市長

(3) 10月29日(火)

ア ヨーロッパ支部会議への出席

平和首長会議の地域支部であるヨーロッパ支部の会議では、来年の被爆80周年における各都市の取組計画やヨーロッパ支部として実施する事業について、議論が行われた。

イ シンプソン グレーター・マンチェスター合同行政機構CEOとの面会

鈴木市長は、被爆・戦後80周年を迎える来年に向けて、核兵器廃絶に向けた機運醸成への協力依頼を行った。

これに対して、シンプソンCEOは、平和首長会議の活動への敬意を示されるとともに、マンチェスター市とその近隣9自治体で構成されるグレーター・マンチェスターでは、公正・正義・平等を大切にしていること、そして過去に辛い出来事を経験したが、市民が一丸となって乗り越えてきた、誇り高い都市であると紹介された。広島・長崎の原爆からの復興から学びたいとの意欲を示され、今後、お互いの学びを共有していくことを確認した。



シンプソンCEO

ウ 第13回平和首長会議理事会(2日目)への出席

(ア) 会議4 会議の総括

前日の議論で役員都市から様々な意見や問題提起があったことを踏まえた上で、今回の理事会を取りまとめる総括文書について審議し、採択を行った。

(別紙「第13回平和首長会議理事会総括文書」参照)

(イ) 閉会

鈴木市長は閉会挨拶で、開催都市であるマンチェスター市及び出席者に対して謝意を伝えるとともに、来年長崎市で開催予定の第11回総会での再会への期待を込めて挨拶を締めくくった。最後に出席者全員で記念撮影を行い、理事会は終了した。



集合写真

(4) 10月30日(水)

ア ワン・ヤング・ワールド本部訪問

鈴木市長は、創業者のロバートソン氏及びマッケイ マネージングディレクターと面談し、ワン・ヤング・ワールドサミットの分科会として今年5月に開催された長崎ピース・プレナーフォーラムをサポートいただいたことに謝意を伝えるとともに、被爆80周年となる来年の開催においても継続的な連携を依頼した。ロバートソン氏は、長崎ピース・プレナーフォーラムについて、大変よいレガシーが残ったと評され、今後長崎の想いを共有するとともに、その実現に向け協力していきたいとの発言がなされた。



ロバートソン創業者との面談

イ ノーブル・カレドニア社訪問

歴史や文化をたどるテーマ性の高いラグジュアリークルーズを手掛けるノーブル・カレドニア社において、鈴木市長は、コルディコット オペレーションマネージャーと面談し、客船アイランド・スカイの2026年から長崎を含む日本クルーズの再開に際し、世界遺産をはじめとする多様な歴史・文化や新たなまちの魅力、アクティビティなどをプレゼンし、今後の継続した寄港と滞在時間の延長を働きかけた。

コルディコット オペレーションマネージャーは、新商品開発にあたり、長崎の新たな情報が得られたことを歓迎され、今後、港に1泊するオーバーナイトツアーの可能性についても言及された。

また、日本被団協のノーベル平和賞受賞で話題性の高い「平和」に関するプログラムについて、強い関心を示され、被爆体験講話の聴講や被爆者との交流など具体的なプランについて意見交換し、商品造成に向けて継続した情報提供を行っていくことを確認した。



コルディコット オペレーション
マネージャーとの面談

第13回平和首長会議理事会総括文書

今回の理事会においては、様々な問題提起をし、次期総会において各加盟都市の合意形成を図るべく事務局において引き続き検討することとなったが、理事会における議論は以下のとおりである。

平和首長会議は、1982年の設立以来、世界の都市と連帯し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組を進めた取組を進め、現在166か国・地域の8,426都市が加盟する平和都市のネットワークに成長した。こうした中、2024年10月28日及び29日の2日間、第13回目となる平和首長会議理事会を英国・マンチェスター市で開催した。

理事会では、まず、現行動計画の取組状況について総括するとともに、ドイツ・ハノーバー市からドイツ支部の活動について、ポルトガル・エヴォラ市から青少年向けの平和文化の振興に向けた活動について、それぞれの取組が報告された。

続いて、次期行動計画の取組の方向性について協議を行い、今後、平和首長会議の活動を地球規模で実効性のあるものにしていくため、地域ごとにリーダー都市が中心となって、各加盟都市が主体的に活動できるような体制づくりを具体的に進めていくこと、PXビジョンの目標を達成するために極めて重要な役割を担う、「被爆や戦禍の実相の発信」及び「次代の平和活動を担う青少年の育成」を重点的な取組として、組織的に取り組んでいくことなど、基本的な方向性について合意した。そして、今後、来年8月に長崎市において開催する第11回平和首長会議総会における次期行動計画の策定に向けて、引き続き役員都市をはじめ関係者と議論を深めていくこととした。

次に、来年の被爆80周年における取組予定について事務局から報告を行い、第11回平和首長会議総会の運営方針について意見交換を行うとともに、米国・ニューヨークの国連本部で開催予定のこどもたちによる“平和なまち”絵画展の開催や青少年「平和と交流」支援事業の再開、世界各地における平和首長会議原爆ポスター展の開催等に取り組んでいくことを決定した。

さらに、平和首長会議の各加盟都市が、今後ともPXビジョンの目標の達成に向けた活動を着実に継続していくために、財政基盤の充実に取り組んでいく必要があることから、メンバーシップ納付金の納付率向上及び事務局への寄附金の募集方法について、意見交換を行った。

以上のことに加え、今回の理事会に合わせて、スペイン・グラノラズ市を事務局とし、ヨーロッパの役員都市等で構成されるヨーロッパ支部会議及びマンチェスター市が事務局を務めるUK・アイルランド支部会議が開催され、各地域における取組について議論を行った。

2025年は、広島・長崎への原爆投下、そして第二次世界大戦終結から80周年を迎える。私たちは、市民の安心・安全な生活を守る使命を担う自治体の首長で構成される組織として、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、市民社会に平和文化を振興し、「平和文化」を共有できる世界を創っていくため、世界中の平和を願う加盟都市とより一層連帯を深めながら、協働していくことをここに宣言する。

最後に、本理事会の開催にあたり、ホスト都市として会議運営と参加者の受け入れについて多大なるご尽力をいただいたマンチェスター市に対し、改めて謝意を表する。

この総括文書はすべての加盟都市へ送付するものとする。

2024年10月29日
第13回平和首長会議理事会